

平成 14 年度動物衛生研究所評価委員会の開催

平成 14 年度動物衛生研究所評価委員会が、平成 15 年 3 月 18 日（火）に動物衛生研究所大会議室において開催された。平成 14 年度の評価委員会委員として、（有）アニマル・メディア社 ピッグジャーナル誌 岩田寛史編集長、北海道大学大学院獣医学研究科 小沼 操教授（評価委員長）、（社）中央畜産会 鎌田啓二常務理事、農林水産省生産局畜産部衛生課 栗本まさ子薬事室長、全国家畜衛生職員会長 谷川昂史会長、（株）日本全薬工業 福井邦顕代表取締役社長並びに厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所 山本茂貴食品衛生管理部長（五十音順）の 7 氏を迎え、動物衛生研究所の研究及びその他の業務全般にわたり評価を受けた。動物衛生研究所からは、寺門農研機構畜産研究担当理事、清水所長、斉藤総務部長、水野総

合防疫研究官、山本疫学研究部長、山口感染症研究部長、横溝免疫研究部長、福所海外病研究部長、井上生産病研究部長、三浦安全性研究部長、品川プリオン病研究センター長、徳久生物学的製剤センター長、加藤北海道支所長、平九州支所長並びに成田七戸研究施設長が、また事務局として、村上研究企画科長、村上研究企画科主任研究官、濱岡研究交流科長、壽情報資料課長、上田衛生検査科長、横木実験動物管理科長、廣田庶務課長並びに中村会計課長が出席し、関連事項の説明及び質疑応答を行った。評価結果とその対応は、平成 14 年度動物衛生研究所評価委員会報告として取りまとめられる予定である。

（研究企画科）



第 29 回豚の繁殖衛生セミナーの開催

第 29 回豚の繁殖衛生セミナーが、群馬県家畜衛生研究所のお世話で、平成 14 年 9 月 5 日～6 日、群馬県富士見村赤城山の赤城緑風荘において開催された。今回は、国公立および民間の試験研究機関や大学から 34 名が参加した。一般演題 12 題に加え、1 題の特別講演が行われた。演題および発表者は次のとおり。

- (1) 無精子症を呈した雄豚の精液性状の経過
伊藤 米人（東京都畜産試験場）
- (2) 種雄豚の顆粒球形肉芽腫（緑色腫）を疑う症例
樋口 明宏（群馬県家畜衛生研究所）ほか
- (3) 豚凍結精液の利用において雌ブタへのホルモン処置が受胎率に及ぼす影響
藤野 幸広（埼玉県農林総合研究センター 畜産支所）
- (4) 深部注入型カテーテルを用いた豚の人工授精による受胎性と産子状況
伊東 正吾（麻布大学）ほか
- (5) ミニチュアブタにおける Diethylstilbestrol および Estradiol Benzoate 投与が母体および産子に及ぼす影響
中澤 京子（東京農業大学）ほか
- (6) 黒豚における黄体数、産子数、生体体重
安田 研（鹿児島県畜産試験場）ほか

- (7) 特別講演 豚胚の非外科移植について
米村 功（鳥取県中小家畜試験場）
- (8) 完全合成培地によるブタ体外成熟卵子の体外受精および体外培養
吉岡 耕治（動物衛生研究所）ほか
- (9) ブタ初期胚の体外発生におけるグルタミン、ハイポタウリン、タウリンおよび BSA の影響
鈴木 千恵（動物衛生研究所）ほか
- (10) 耳翼皮膚由来の体細胞クローン豚の作出
河原崎 達雄（静岡県中小家畜試験場）ほか
- (11) 分娩時間に及ぼす要因分析
今枝 紀明（岐阜県畜産研究所）ほか
- (12) 豚繁殖呼吸障害症候群（PRRS）に関する研究
中根 崇（千葉県畜産総合研究センター）
- (13) 一養豚場における離乳後無発情豚の卵巣診断
岩村 祥吉（動物衛生研究所）ほか

今年度は、つくばから離れた開催となったが、セミナー会場と宿泊が同一場所であったこともあり、それぞれの講演中に加え、講演後においても活発な意見交換や情報交換がなされた。次回は、初夏のころに動衛研で開催することが了承された。

（生産病研究部臨床繁殖研究室長 岩村 祥吉）